

教育目標  
2 普及・充実の目標

普及（教科書・教科書外の資源）  
充実（教科書外の資源）

既存生徒の特性や教員の二つの点で教育を行なう。社会の変化による教科の変更や生徒の育成を考慮する。

教科（教科書・教科書外の資源）  
人間（人を重んじる、心靈的な人間）

人（個）（主体的・生産的人間）

学校員 川井 久也

中・長期的目標

(1) 学校の目標  
① 地域の芳醇・福祉機関との連携を密にし、地域で生徒を育てる、生活を通じた教員の指導を図る必要がある。

② 既存生徒の多様な教育の一貫化と連携、教員個人の指導力向上、専門性向上と授業力向上が求められる。

③ 地域社会における学校の輪郭を固め、特別支援教育を推進し、地域の社会の機能の充実を図る必要がある。

④ 既存生徒の健康的な保育、安全の確保が不可欠で、保護者も関係機関と連携し、また各分野の実践研究が必要である。

(2) 既存生徒の目標  
① 新しい生活様式に基づく基本的生活習慣を確立し、健康的の保持・増進、体力の向上に取り組む既存生徒  
② 現在の社会における主体性をもつて生きていく力の養成・能力を身につけて、自ら考える既存生徒  
③ 自己の役割を担い、個人的能力を身につけて既存生徒  
④ 社会参加と自己に向付、仲間と協力して壁を突破する既存生徒

(3) 教員・学校組織等の望ましい在り方  
① 授業内容中指揮方法等の教育活動を組織的(正確性、改善点等)で学校  
② 開発機関と連携し、既存生徒の可能性能を把握し、地域の保護者が力を信頼する既存生徒組織  
③ 特別支援教育委員会を立ち、地域の社会の役割を果たす既存生徒組織  
④ 学校の現状中既存生徒の実態を踏まえた危機管理体制を確立する既存生徒組織  
⑤ 教職員の中でも丁寧な接客の・接觸の効率の効率化

4 今年度の重点目標

(1) 授業実験力の向上 (教科指導の充実)  
(2) 地域社会との連携 (マント・ICTの適切な活用)  
(3) 安心・安全な学校づくり (マント・ICTの適切な活用)